

河野 正勝（豊後高田市田染池部）

【経営の概要】

経営形態	家族経営
モデルの種類	中山間地モデル
就農時期	昭和55年
労働力	基幹2名、補助2名

【経営規模 (ha)】

	経営面積	水 稻	麦 類	大 豆	野 菜	その他
			小麦			
平成19年	1.9	8.1	14.1	8.9	0.2	0.08
平成20年	2.0	7.7	13.5	9.8	0.4	0.08
平成21年	2.0	8.3	14.0	7.5	0.4	1.2

【主要機械装備】

トラクター (50ps)	1台	シーディングロータリー	1台
田植機 (8条)	1台	ブームスプレーヤー	1台
汎用コンバイン	2台		

【経営の特徴】

昭和55年 就農。

常に中山間地域家族経営のモデル的な立場で活躍。新しい技術も積極的に取り入れるなど経営改善への取り組みも先進的に行っている。地域の農地の受け皿としても重要な役割を果たしている。

【導入した新技術】

◎土壌分析に基づく土づくり資材の投入

(手法) H19～21年の小麦栽培にあたって、5圃場で土壌分析を行い、診断結果に基づいた施肥を行った。

(結果) 土壌改良については短い期間での効果は感じられにくいですが、土壌改良の必要性について改めて経営体と検討をおこなった。

また連年の土壌診断実施により、土づくりの必要性について認識が高まった。

(留意点) 今後も継続することが重要。

◎シーディングロータリー＋培土板播種技術

(手法) シーディングロータリーに培土板をつけ、耕起・播種・簡易溝上げ、除草剤散布の作業を同時に行う



(結果) 播種時の省力化については同時作業を行うため、十分実感できるものであった。また追肥、麦踏み、土入れの作業も同一機械で行えることから、作業面での効率もアップする。またばらまきになるため、播種量も多くでき、収量的にも安定すると思われる。

◎狭畦密植栽培

(手法) 適期(7月中下旬)に播種。本来は晩播対策技術であるが、中耕培土等中間管理技術の省力化、収穫作業が楽になることなどから、経営体の判断で全面積で適期播種を実施

(結果) 徒長し、若干の倒伏も見られたが、畦をたてていないため、収穫作業への影響はほとんどなかった。

適期播種のため、単位面積あたりの生育量は十分に確保されたため、出荷段階で250kg/10a程度の単収が確保できた。



(留意点) 大きな台風の襲来がないため、倒伏面でのデメリットの検証が十分できていない。

しかし実績は上がっており、確実に省力化にもつながることから、引き続き経営的な面も含めて検証を続け、大規模経営において導入できる技術にしたい。

◎その他特徴的な取組

すでに後継者ととともに営農を実践しており、経営の安定、所得の拡大に向け、園芸品目も新規導入している。

◎主な波及活動

- ・豊後高田市の大規模土地利用型農業に取り組む生産者(組織)を集めての麦研修会(H21.2)にて、成果発表を行った。
- ・豊後高田市の土地利用型作物の認定農業者でもモデル的な取り組みとなっており、情報交換の中で新技術の波及に努めている。

【経営状況】

(10aあたり)

	労働時間(県平均比)	全算入生産費(県平均比)	所得
経営全体	6.8hr (36%)	63,459円 (124%)	2.9万円
水稲	11.2hr	90,782円	
麦	5.4hr	53,324円	
大豆	3.9hr	50,837円	
飼料米	11.2hr	71,608円	